

440002

加及都告所也

以心平一平の平

神考初志事伴世健

公海大臣仲齊左限平所殿

REEL No. 1-0562

0007

明治二十一年十月十八日
拓殖會館管安田定則殿
外(書)管高澤之郎

REEL No. 1-0562

0009

440004

三七

明治二十八年八月廿六日
同 廿八日 廿九日 發遣

警察局長



主任

警察局長

親張

支那特派員

支那特派員

現令支那在留之支那人等速に母國に歸せしめ
中世以來支那の支那人等も別代支那の支那人等も有之旨
支那人等考支那支那人等支那人等支那人等

(明治二十八年八月廿六日)

外務省

月廿六日

REEL No. 1-0562



川二年二月廿四日

主管 政務 中田

次官

印

秘 甲 第一七號

一

及 報 告 置 及 清 國 之 陳 述 書 等 類

臺灣 地方 之 赴 日 居 夕 之 慶 去 日 廿 日 午

后 十 時 廿 五 分 着 下 日 列 車 一 号 瑞 濱 上 岸

留 地 八 号 倉 庫 止 宿 也

之 清 國 學 史 著 者 在 府 番 品 縣 入 山 中

第 三 三 号 一 号 送 仙 使 監 署 等 類 之 類

類 等 類 之 類 之 清 國 現 政 府 之 類 等 類 之 類

之 潛 匿 致 居 夕 之 趣 之 慶 今 般 派 員

位 等 一 本 邦 之 在 山 之 間 去 日 廿 日 午

番 港 之 日 獨 立 昭 示 一 八 二 九 年 之 事

神 奈 川 縣 廳

二 日 橫 濱 之 來 着 之 居 留 地 五 十 三 番 号

之 七 一 九 商 會 之 止 為 也

右 及 報 告 也

明 治 三 十 一 年 一 月 廿 二 日

神 奈 川 縣 知 事 中 野 健 明

外 務 大 臣 男 爵 西 德 二 郎 殿

神 奈 川 縣 廳

外 務 大 臣 男 爵 西 德 二 郎 殿

440005

機 密 受 第 一 二 八 號

000044

機密 第一七二號

十一月十八日 警務部 警務司 中田

秘甲第五七號

本年二月廿二日秘甲第一七號より及御
報置後清國人陳漢事陳壁及王賢南
ハ令般東京市牛久區鶴巻町四十番地ニ
移轉セリ
右及御報置後也

明治三十一年二月十七日
神奈川県知事 中野健明

外務大臣 野澤西徳二郎殿

神奈川県廳

警第廿號

冊一年八月廿二

主管 政務局

監書官

10

ye

次官

高秘第584号

亡命清國人ノ暴動報告

亡命清國人陳白事服部次郎ハ既報ノ如ク本月十四日
未福シ中島町旅舎服部常吉方ニ投宿滞在セラレテ
専ラ注意ヲ加ヘ暴動視察スルニ往訪者当地新聞
社員等ニシテ他ニ訪問スルモノナク而シテ存名ハ始終
平山周(存名人)ニ伴ハレテ市内及公園等ヲ遊覧シ
ツアリシガ本月十八日午前九時頃多量汽車ニテ長
崎ニ向ケ出度セリ(長崎警察署長ニテ時電報セシ)滞福中ハ
別ニ異状ヲ認メス
右及報告矣也

追テ本月十七日付高秘第572号報告書中韓
客陳白ト記載セルハ存名ノ誤記ニ付坎段申添矣
也

明治三十一年八月十九日

福岡縣知事曾我部道夫



外務大臣伯爵大隈重信成

440007

マ=三-

附一年八月三十一日授受 主管 政務 中田

秘甲第七〇〇 邦

清國人ニ関スル件 報告

次官 (山)

亡命者清國人孫逸仙ハ當横浜居留地百三十七番館
ニ止宿中如今回同居留地百三十一番ノ内一戸ヲ借受テ昨廿九
日同所ノ移轉セリ

同人ハ外出スルテ稀ニテ常ニ室ニ篋居シテ讀書ニ餘
念ナキモノ、如ク又未訪者モ無之由右トモ在東京憲政
黨員大養毅トハ一二回信書ノ往復ヲ為シタル趣ニ有之所
右及報告候也

明治三十一年八月三十日

神奈川県知事 浅田徳則

外務大臣伯爵大隈重信殿

機密 第一 第三 第二

第一九〇九號

主官 政務局

秘書官

次官

兵發秘第四四三号
左ノ通相聞条此段及申報也
明治三十一年九月廿八日 兵庫縣知事大森鐘一

使

外務大臣 陸奥宗光 閣下 呈 信 殿

清國政變ノ関スル居留外人ノ風説
一清國政變ハ滿漢兩派勢力ノ争衡ニ出ル清國人ノ自動的
ニ近因シ歐洲列強ガ何等ノ関係ヲモ有セサルヤ疑フ容レハ蓋シ
庸有為ガ難ク英艦ニ避ケタルノ風説ヲシテ伎リノ事實ナラシムルモ
之ヲ以テ直チ英露ノ関係ニ論及スルハ先ヅ露國ナルベシ然レモ
親露党ト目セラレ日英ニ免點セラレタル諸大官ガ直ニ要路ニ立
ツヤ否一ノ疑向ナリトフ安ルニ今後北京外交官ノ行動特ニ日英
露ノ對清政策ハ世人ノ凝視スル所ナルベシ又英人中之遠
般ノ政變或ハ日英米ノ同盟ヲ速ナラシムルノ機会ヲ與フルニ至ルベ
キヤ知ルベカラズトノ説ヲナスモノアリ

第一五五號

440010

清國漫遊中ナル伊藤侯ノ行動ハ外人一般ノ注目スル所トナリ
英人ハ假令在清ハ日英兩國對清政策上利益アリトスル感
情ヲ有スルニ及シ獨逸人ハ之ニ憐焉タラサルノ傾アルモノ如シ
居留外人一般ノ動靜ニ揣摩手臆説ヲ運シ日本新聞紙ノ論
議及我國對清政策ハ彼等ガ免テ速ニ知ラントスルモノ如
右

三連報所 以外務大臣、陸奥宗光、世傳、可長官、大隈、
沖倉、長崎、新澤、云々知リ、

67

十一月十五日

外務省

秘書官

高秘第三四七號

次官

清國政變ニ關スル件申報

清國ノ政變一々新聞紙上ニ喧傳セテ付テハ當地在苗、清國人及其他外國人ノ動靜意向等注意内傾致セリ

一當地在苗清國商人ニアリテハ殆ント對岸ノ火災視更ニ何等ノ感覺ナキカ

二何等ノ感覺ナキカ如ク頗ル冷淡ニ看過セリ

三當地駐在清國領事張桐華ハ今回ノ事變ニ關シ捕縛セラレタリト傳ハラル

四就テハ何等カ本國ヨリノ消息アリレナラント思料セラル

五駐在公使ヨリ張蔭桓ノ捕縛セラレタルヲ通知セタル

六ルノニ張領事ニ於テモ事ノ我身ニ及ハンコトヲ恐レ事變後本國ニハ未タ一回ノ書信ヲモ為サスト云フ

一在苗歐米人ノ評論ニル知ヲ聞クニ露ハ近來自國勢カ漸ク情定ヨリ去ラントスニ及シ英國ハ大ニ其翼ヲ張ラントスルノ傾向ヲ呈ス故ニ露ハ其際一時ニ英ノ勢力ヲ清廷ヨリ驅逐セントスルノ計策ヲ取リ海州大臣ヲ使候シテ以テ其變事ヲ挑度スルニ至リレモナラン現今ノ狀勢ヨリ然スレハ英露ノ衝突ハ到底免ル可ラス蓋シ其事局ノ切迫スルヲ知ルニ足レリ云々是レ固ヨリ已ノ揣摩臆測ニ過キスト雖モ英露ノ東洋政策カ如何ニ波等歐米人ノ眼瞬ニ映シツアルカヲ窺知スハキナリ

一八五

440011

右及申報候也

明治三十一年十月一日

長崎縣知事小松原英太郎

外務大臣御對大隈重信殿

通報元(内外務大臣御對大隈重信殿)

十一月十五日接受
管政務局
秘書官

高秘第三四八號

清國人ニ關スル件申報

次官

和山
客月廿日合清國上海ヨリ入港シ翌廿九日午後六時神戸
向ケ出港シタル英國汽船カントン号乗組員等客中
ニ名ノ清國人アリ当港碇泊中同人等ト税関監吏ト
筆談ヲ試ミタル一即チ聞ク波清人曰ク是業ニ任藤侯
後清セラレ今度又大隈外務大臣ハ改定員三十名ヲ以テ
參事官ニ以テ清シタルト聞ク事實ナリヤ監吏ハ其事實ニテ
カレテ告ケ尚及問シテ曰ク是下等ハ清國ノ革命党ニテ
ナルヤ今度渡来シタルハ如何ナル目的ナリヤ姓名ハ如何
等ノ問ニ對シ波清答ヘテ曰ク予等ハ革命党ニテアラズ渡来
ノ目的ハ商業視察ニシテ姓名ハ明言スル能ハズト而シテ
本人等ハ英語ヲ解スル模様ナリモ税関監吏ニ對シテ英
語ヲ解セザルモノハ如ク候ヒ又船室ニ在ルニ當リテハ頗美
服ヲ着スルモノ甲杖上等ノ公ハ月ハ租税ヲ看聞スル等
其舉動言行ヨリ察スルニ普通通商業視察ノ為メ
奉朝セシモノトハ認ムル能ハカリシ旨聞カ致ス右清

和山

440012

國人ハ神下上陸ノ船客ナリト云フ時即チ抑或ハ政治上ノ
意味ヲ有スルモノニハアラサル歟ト思料ス
右及申報也
明治三十一年十月一日

長崎縣知事小松原英太郎

外務大臣御意付大隈康彦殿

通報先
（外務大臣御意付大隈康彦殿）
（神戶外務局長御意付大隈康彦殿）

210013

440013

次官

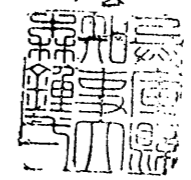
光緒三十一年十月八日

主官 政務局

秘書官

兵部秘第四六〇号
左ノ通相聞美条此段及申報其也

明治三十一年十月八日 兵部知事 大森 鐘



公使

外務大臣 陸奥 宗光

清國人來往

去ル二日長崎ヲ入港シ翌三日香港ニ向テ出帆シタル英汽船カ

ントシ号來込清國人行動ノ関シ本月四日長崎縣ヨリ報

告有之矣付当地ニ上陸ノ形跡取調ニ處右ノ廣東省番

高縣人韓少孤(三十三)全省新會縣人陳家臣(三十七)

二名シテ本月二日本船ニ來神尔來当市海岸通テ目

廣業公所ト稱スル廣東人ノ集會所ニ滞在セリ彼等何

レモ本國ノ巨萬ノ財産ヲ有シ遊學ノ身ニ本邦文物視察

ノ目的ヲ有シ渡來シタルモノナクハ其自唱スル處ニシテ普通通商

業視察者ニシテ無之然レモ本國政變ニハ何業關係ヲ有セ

タルモノナルカ如シ

右

通報所 内外務大臣、警視總監、主官 大森 鐘

長崎、抄

十一月十四日

主務 政務局

秘書官

秘甲才七四〇号

次官

公使

110044

第九一第受

当横濱在留清國人昨十日中華層級之北ヲ祝典奉
 ナ執行而シテ十日午前十時ヨリ在留清國人ノ年拜者アリ
 自十時ヨリ清國人ノ大同学校生徒ノ隊伍ヲ組
 居留地内ノ運動場ニ着テ同所ニ北ヲ着
 撃ノ執行及烟火ノ打拂等アリ夜ニ入り中華層級内ニ北ヲ
 夜層ノ催アリ招待ヲ受テ来會シタル重立者ニ東京ヨリ根
 本通明外ニ三名其他当横濱市長及市層議員等シ
 テ南清地方出生ノ重立タル清國人ノ孰シモ年層ニ盛文
 ナル奉典ノ有之候然レ其奉典ノ趣人彼康有為

440014

ノ主義ノ基礎トシテ子弟ヲ教育セル大同学校ノ長教師
 及之レニ多ク于傳ノ有ズル人々ニ概ネ南清地方出生ノ所
 謂改革派ニ屬スル者アリヨリ北清地方出生ノ所謂守旧派
 ノ者ニ自然及對ノ姿勢ヲ採ルン標標ニ清國領事ト始テ北
 清地方出生ノ者ニ当日招待ヲ受ケタルニモ拘リテ事故ニ托シ多
 タニ年層セカリシ

右及報告候也

明治三十一年十月十三日

神奈川県知事 神田徳則

外務大臣 伯爵 大隈重行 殿

第一号廿二日
秘書官
主管 政務局

次官
兵部第四六〇号一
左ノ通相間ニ條此段及冊報也
明治三十一年十月十八日 兵庫縣知事 大森 鐘



参事官

外務省自他署之限主信及

去ル八日報告清國人韓少孔、陳袞昌ハ尔来下山手通二
丁目東亞報館ニ移轉セリ彼等、廣業公所、当地居、而廣
東人ノ集會所ノ管帳役ニ備ハレ居ルモノナリト云フモ別、何等
業務ノ後事ヲ模様ナレシ彼等ノ識、モ、云フ處ノ間、韓
ハ東亞報館者韓雲首、姓、本國、在、湖南、巡撫某
ノ設立、係、時務学堂教師トシ、梁啓超ハ清、去、政變前
北京、赴、キ、後、梁、代、堂長、タリ、モ、ナリ、ト、又、陳、袞、昌、ハ
梁、啓、超、ハ、全、縣、人、ニ、シ、テ、是、亦、本、國、於、某、学、堂、ノ、教、師、ト、シ、
レ、東、亞、報、館、ニ、由、リ、何、レ、モ、康、有、為、ノ、門、下、生、ナリ、ト、云、フ、而、シ、テ、彼、等、
ハ、康、有、為、及、梁、啓、超、等、ノ、当、地、来、ル、コ、ト、ヲ、云、フ、其、米、國、

第一七〇〇號

410044

440015

渡航元モ難、外、之、々、思、フ、在、國、政、變、ニ、関、係、ナ、ク、モ、シ、
ヨ、少、ク、モ、後、難、ノ、豫、知、シ、渡、来、セ、シ、マ、シ、
右

通報所 外務省在、米、國、政、變、ノ、中、在、リ、テ、計、大、陸、ト、シ、
行、フ

秘書官

第一号十月廿四日發 主官 政務次官

甲秘第一五五號

次官

和陽 天山

人

參事

清國人梁啓超、王韶及從僕張順、菊町正平、川町三橋、
常吉方、牛込正市、谷加賀所、岸目三磨、地柏原文吉郎、
方、移轉ス、中處該家屋狭隘、早稲田、
香山四十番地、高橋琢也、所有家屋、工一昨廿二日、中
西正樹、日道ニテ移轉シ、夕リ移轉後、日所、訪問面
會シタルモノ也

徐 勳 林 北泉 羅 孝高 鄭 晟禮

畢 永年

下梁啓超、王韶、病棄、凡、以、于、當、分、内、外、出、セ、ス、
大内暢三、大内暢三、大内暢三、大内暢三、大内暢三、
中西正樹、中西正樹、中西正樹、中西正樹、中西正樹、
鳩山和夫、鳩山和夫、鳩山和夫、鳩山和夫、鳩山和夫、

高橋橋一郎、吉田俊雄、高田早苗、西郷吉義

小林 某 平山 某

及 申 報 矣 也

明治三十一年十月廿四日

警視總監 西山 志澄

大隈外務大臣 殿

440016

十一月廿五日 陸奥

主官 政務

次官

和山

兵部及秋才四八六号

左ノ通相聞矣 奈此段及申致也

明治三十二年十月廿三日 兵部縣知事 大志 録

外務省官位守方 浪主 信 後

清國新派之來

清國新派之來 (別号 琴溪) 惺王 若去十九日上海ヨリ
入港ノ汽船沖舟九ノ上陸シ海岸通四丁目清高チ也
同子泰号 漢在中ノ清國人 胡鉄梅 (既後) 其彼等
旧交アリト聞ク 当地公証人 水越成子ヲ訪問シ 惺王
西ノ今夕刻 呼船翌日 在船ニ横濱ノ向キ去渡セリ
異ニ十餘年前 在邦駐劄 清公使 何如 環ノ隨員トシ
テ初メニ才氣シ 後 当地ノ副領事トシ 事アリ 退官後
上海ニ於テ 港技方ヲ盡シテ アリシモ 在邦 政變以來 斯
業ニ關係スルハ 自多奇 禍ノ實ヲ 恐レテ 文物視察ニ
贈シ 難ク 在邦 避タル 為メ 海來セシモノナリト云フ 惺王 在邦

四七

440017

於ケル日 清西人ノ 共立セル 興業人云 自今ハ 由ニ何レ
モ 草新派ナリトハ 彼ガヲ 識ルモノ、 諸人ナリモ 康有為
屬スルモノナルヤ 否ヤ之ヲ 知ル能ハズ

石
通商 以 外務省 漢 文 書 外 務 省 印 章

秘書官

第一号十月廿九日 接受 主官 文 抄 附 封

秋甲身七七〇號

次官

清國人三圍上ル報告

本月廿六日秋甲身七七〇號ヲ以テ友報告遺ル
清國人博玉若ハ昨廿七日出京セリ其行先ハ
公 多分京橋正築地清國人王揚齊方ニ用
參事官 向ハ康有為著京后ノ状況視察ノ為メナリ
聞ヘアリ

右友報告信也

明治三十一年十月二十六日

神奈川県知事 浅田徳則

外務大臣伯爵大隈重信殿

通報上 (内務省大臣、海軍大臣、外務大臣、大蔵大臣)

210024
010044
號三〇八一第受

440019

REEL No. 1-0562

0026

第一一四九號

甲辰第一五九號

清國亡命者傳

主官 政務司



次官

在京清國亡命者康有為、一行中康有為、梁鐵
君、康同照、李唐、梁煒等、本日午後一時十八分、牛
込、已早稻田、鶴巻町四十番地、高橋琢也、所有家、移轉

葉湖南、何易一、兩名、橫濱、向ヶ出、發せり

右友申報、庚也

明治三十一年十月廿六日

警視總監 西山志澄

大隈外務大臣 殿

OSQOAA
110011

440020

440019

440019
 440020
 440021
 440022
 440023
 440024
 440025
 440026
 440027
 440028
 440029
 440030
 440031
 440032
 440033
 440034
 440035
 440036
 440037
 440038
 440039
 440040
 440041
 440042
 440043
 440044
 440045
 440046
 440047
 440048
 440049
 440050
 440051
 440052
 440053
 440054
 440055
 440056
 440057
 440058
 440059
 440060
 440061
 440062
 440063
 440064
 440065
 440066
 440067
 440068
 440069
 440070
 440071
 440072
 440073
 440074
 440075
 440076
 440077
 440078
 440079
 440080
 440081
 440082
 440083
 440084
 440085
 440086
 440087
 440088
 440089
 440090
 440091
 440092
 440093
 440094
 440095
 440096
 440097
 440098
 440099
 440100

REEL No. 1-0562

0028

第一等事務官 主官 政務官

秘書官

秘書官

甲秘第一六〇號

次官

清國亡命者康有為外四名牛込區早稲田鶴巻町四拾番地高橋琢也方、移轉セシ旨昨日甲秘第一五九号ヲ以テ申報及ビタル處都合ニ依リ同區加賀町志丁目三番地ニ移轉セリ

右及申報候也
明治三十五年十月廿九日
警視總監西山志澄

大隈外務大臣 殿

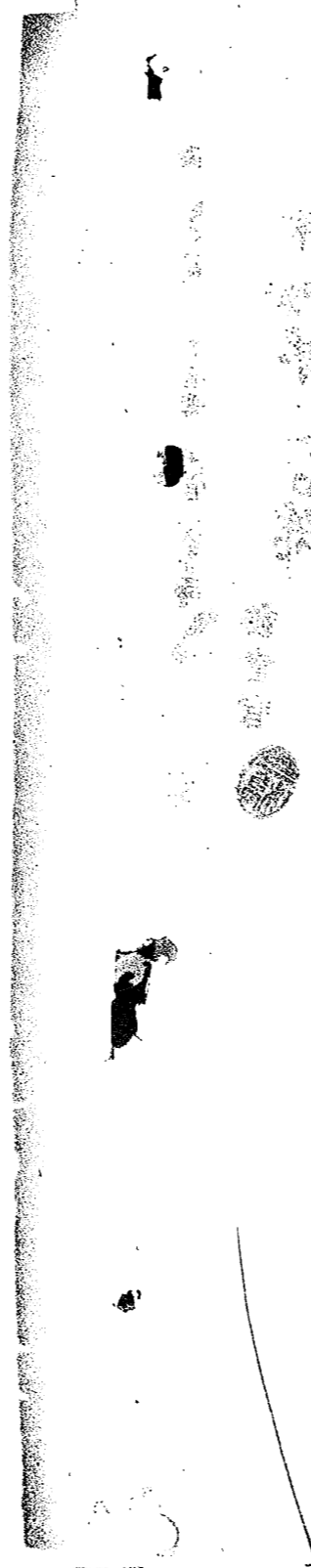
030011
180011

440021
440021

Handwritten vertical text, likely a name or title.

Handwritten vertical text, possibly a date or location.

Main body of handwritten text, appearing to be a letter or document.



REEL No. 1-0562

0030

為子清子の手紙

榮親殿

大正二年一月三日

主務政務局

内閣

内閣

ひ秘第六七七號 十一月三十日

(總理内務外務大臣内務次官)

大官

清國亡命者就中康有為、滿清ノ軋輾ハ曰、其ノ度ヲ高ノ結局
干戈ヲ動カスニ至ルヘク左スレハ滿洲鐵道通過ノ以前ニ於テ事
ヲ舉クルハ漢人ノ為メ得策ナリトテ常ニ其ノ意見ヲ日本要路ノ
人々ニ向ヒ陳述シ、應援ヲ求メタルモ伊藤侯ノ如キハ康ノ年
壯秉銳、卒短慮ニシテ事ヲ興ニスルニ足ラザルコトヲ看破
シタルニヤ善ヒ加減ニアシライ置キ其ノ意見ヲ容レザルヨリ是
レ亡命人等清國ニテ會見シタル時ノコトヲ指シタルモノナルバ
シ候、帰朝後會見シタルコトヲケレバナリ康ハ犬養毅等ニ及
シ大隈伯ニ謁シ具サニ述フルニ同一ノ事ヲ以テシタルニ伯ハ失
敗ニ失敗ヲ重ネ到底力ヲ内治ニ據ル能ハス去リテ功名野
心ハ抑ヘテ割スル能ハザルコトヲ嘆スルノ折柄ナレハ一モニモ
ナリ之ニ同情ヲ表シタリトハ多少形迹アル事實ナルカ如シ
然ルニ康ノ意見ヲ賛成スルモノ、中ニ派アリ一ハ曾根俊虎等ノ

10-03 康文

149022

一味ニシテ一ハ新井甲子之助等ノ曰志ナリ曾根ハ痛ク康ノ大隈
ニ頼ルノ不利ナルヲ陳述スルモ康ハ却テ曾根ノ説ヲ容レ
ス飽マテ大隈伯ニ倚リテ事ヲ舉ケント 計画ヲナシツ、アリ
ト言フ然レモ未ダ兵ヲ舉クル杯言フ程ニ熟シタルニハアラ
ス又大隈伯ト雖為ニスル所アリテ康ヲ利用シ已ノ目的ヲ達スル
ノ便ニ供セントスルニ外ナラザルハ勿論ノコトナリハ輕々ニ康
等ニ同意シ事ヲ舉クルカ如キ事アルベカラスト思ハル
過般新井ハ曰父會ノ余ヲ帶ヒ帰朝暫時滯京此程清國ニ向テ之ヲ
所ノ明ニセス出發セリ民間ニ本邦有志カ清國革命派ヲ援ケ為
ス所アルベシトコトヲ傳ヘハ之ヨリ轉訛ニ来リシ一種ノ凡説タ
ルニ相違ナカラン
新井ハ久シク蘇州ニ商店ヲ開キ今田暴徒ノ為メ其ノ商店ヲ破壊
セラレタル其ノ一人ナレトモ彼ノ出立迄ハ之ヲ知タル様子ナカリシ
モ途中ニ此ノ事ヲ聞カハ益シ豫定ノ土地ニ至ラズシテ先ツ
蘇州ニ歸ルコトナルベシト言フ (右信偽詳ナラサレ氏亦考考也)

REEL No. 1-0562

0031

十一月十七日接奉

主管 政務局

秋甲第七九六號

清國人ニ関スル報告

當横濱居留地大同學校ニ在清國人街
勤父同校止宿清國人何樹齡ハ今十六日午
前五時當港解纜英國藥瓶一口ヒラキ
指シ神戶馬関長崎等ヲ經テ清國香
港ニ向ケ出港セリ其用向今面当横濱ニ於テ
開行スルニ就テノ要件ヲ兼テ香港ニ於テ
況視察ノ為トナルニ相聞ハ依
在及報告也

明治三十一年十一月十六日

神奈川県知事 浅田徳則

直報 (神戶) 長崎

外務大臣子爵青木周藏殿

880004

第一九一號

大臣

十一月廿九日接奉

主管 政務局

行才

次官 乙 第六五五號

十一月二十日

(内稱相親長 大坂京都神奈川長崎兵庫)

平山周ハ亡命清王人康有為等来朝際清王ヨリ同道ニル来朝
町區平河町四丁目三番地三橋方ニ下宿シ數々康有為梁啓超ヲ
訪問親密ノ間柄ナリシカ本月十五日香港ニ向テ出發シ明年一
月下旬頃歸朝ノ見込ナリト云フ而シテ出發ニ際ニ曾テ清王ヨ
リ康有為等ト同行セシ宮崎寅藏 宇佐穩岐彦等ハ平山ヲ見送
リ互ニ今面平山周ノ渡清ハ實ニ危險ニシテ再ビ歸朝ハ六ヶ敷
ヲラント語タリタリト云フ

警視總監 大浦兼武

青木外務大臣殿

880004

あつ清

大臣了次官 政務局 秘書課

乙秘第九四號 十二月一日 (總理内務外務大臣内務次官)

徐勳清國ニ赴ク (乙秘第九七七號参考照)
徐勳清國七命者ニアザルモ康有為ノ高門ノ弟子ニシテ先
ニ来リテ横濱ニアリシモノ今因清國ニ向テ歸リ去ル其ノ謂
フ所ニヨシハ康有為ノ調金スルナリト然レトモ彼レハ他ニ康
有為ノ御ミ居ルモノナリト傳フルモノアリ如何ニヤ
曾テ清國ニ航シ張之洞ノ信用ヲ得其ノ幕議ニ参シタル退職
陸軍大臣大原武敏何等カノ用件ヲ帯ビ今回帰朝シタ
リ蓋シ此間何等ノ消息アリシ

440052
410051

十一月二日

次官 あり 陸軍大臣

十一月二日 接受

主官 政務局

14005

大臣 乙秘第九九九號 十二月二日 (内相、外相、局長、大坂、京都、神奈川、長崎、兵庫、静岡、山梨、福山、廣島、愛知)

清國七名者出発ノ報

清國七名者康有為、梁啓超、柏原文太郎同道ニテ昨一日正午十二時新
橋汽車ニテ出発シタリ(神奈川、静岡、両縣)同夜箱根温泉場ニ泊康有
為ハ熱海へ梁啓超ハ横濱へ行ク筈
右内報矣也

警視總監 大浦兼武

青木外務大臣 殿

機受 第一 〇一八 號

020044

440027

號四〇二第受密

十一月十七日

去管政務局

印

書了 法多 文

次官 察 甲才ハ一四号

清國人の関入報告

清國之席者康有為、梁啓超、羅孝高、昨五日熱海ヨリ縣下足柄下郡湯本ニ立越、同所宿住方ニ投宿セリ而シテ同人等、二三日滯留、上歸京ル旨申居候

右及報告候也

明治三十一年十二月六日

神奈川県知事 渡田 新

外務大臣 齋藤 青木 周 穰 殿

大臣

閣下

明治三十一年十二月十三日

西の事情は甚多、電報の送付に付、
おのれは、
おのれは、
おのれは、

次官

同

秘 甲 牙 八 二 三 号

清国人の関る報告

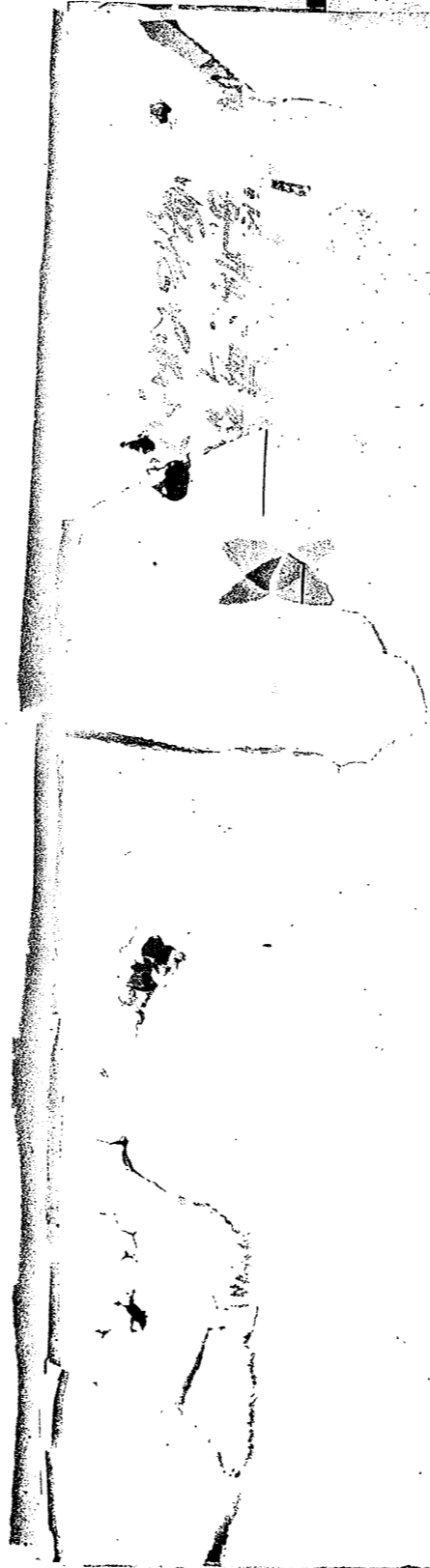
去月六日秘甲牙八一四号より及報告並に清国人の内課
啓起、去月七日午後一時三十分湯本より出発して横濱に來り居
留地百五十一番華安方ニ於テ夕餐ヲ為シ同夜百五十一番
林北泉五十三番馮鏡如及華安等同伴大同學校ニ赴ケリ
同校ニ於テ校長ヲ始メ生徒一同待テ居リ直ニ校堂ニ學内
セリ梁啓超ハ殆ドト三十分換抄ノ詞ヲ述、終テ二階ノ應
接所ニ入リ換抄旁談話ヲ始メ、末層者ハ指録名ニシテ待

440028

遇最ニ鄭重ノ模様ナリト云フ且梁啓超ハ當公同校内應
接所ノ居室ニ充テ同室ノ硝子窓ニ紙ヲ張り外部ヲ透見
セザル様ニ考シ入口ニ間人進マシテ記載ニ並テリ間々念ハ
同人ハ馮鏡如等ノ計畫ニ存シ新聞社様主ノ外當公面會ヲ絶
スル旨ヤリト云フ
又陣營ハ去月七日午後一時頃天津九手神戸ヨリ帰濱ニ居留地百五十一番
神逸仙方ニ立寄リ休息上神逸仙ト共ニ同日午後一時上京ニ昨九日終
初車ニテ兩名ハ帰濱セリ
右及報告也
明治三十一年十二月十日
外務大臣子 齋藤青木周廣殿
神奈川縣知事津田社則

440029 -

李夏采が今回国スルニ付キ去ル九日鞍所区平河町
宝亭、義和宮殿下村鐘和韓衣履李元采李元韶
采美尚ハ送別ノ宴ヲ開キタリ席上異ナリタル話
モナク其翌日李夏采ハ出立セリ



REEL No. 1-0562

0037

十一月十四日

警察局

印

高野

大臣 秘 甲 八二六号

周 弁

清国之居留者ニ関スル報告

本縣下箱根ニ滞在セシ康有為及隨行者羅孝高ハ昨十一日午後三時十五

次官 國府津乘車ニ乗リ同人滞在中去ル十日申午芝罘月町十四番

地味旅舎相原又太郎ヨリアヤリニキツクセルノ電報到着セリ又昨

十日午前十一時羅孝高ヨリ神戸岸町キ丁目三番地廣昌隆、

羅盤右ニ宛テカニカハリマヒトノ電報ヲ受ケタリ

右及報告候也

明治三十一年十二月十二日

神奈川県知事 浅田 彦 到

CS0044

第一二第受

440030

外務大臣 齋藤 實 殿

追々康有為滞在中ニ私服巡查一名ヲ問接ニ付シ整戒ノ如ク又出
テ、陸上同巡查ヲ付シ康有為居住ノ西郷牛込警察署ヨリ
継リ

週報

内外兩相 總監 在任中

440031

七〇二

警署

警署

印

秘書

印

秋平才ハシハ多
 清國亡命者未往等ハ其時々
 御報セシ通ニシテ目下縣下滯
 留亡命者ハ梁啓超、孫逸仙、
 陳璧等ニシテ特ニ巡查ヲ附シ危
 害ナキ様警戒致居候得共去
 十五日機密送券台一号ヲ以テ注
 意方御来示ニ付テハ尚一層注意
 可致候為念此段及報告候也
 明治三十年十二月十七日

外務次官 都筑馨六殿
 神奈川縣知事 浅田徳則

神奈川縣廳

印
 印

警署廿一号

明治三十五年二月二十日

次官

事務局

秘書課

秘書課

甲秘第二〇四號

清國七命者梁啟超本日横濱ヨリ上京并込區市谷加賀町三丁目三番地康有為ヲ訪ヒ面談シ夫ヨリ全區早稲田鶴巻町四十番地到リ
当分全地ニ滞在ノ見込ナリ
右及申報候也

明治三十五年五月十七日

警視總監大浦兼武

青木外務大臣殿

SE0044

號八五二第受

440033

880044

辨七ルニ第受

大正

次官

和甲第ハ五六号

十一月廿三日

警務警察局

第四

50M

清国亡命者ニ関スル報

清国亡命者梁啓超ハ当横濱居
 番地ニ滞在中ノ処去ル十七日出京
 セリ同人ハ当分東京牛込区早稲田
 鶴巻町四十番地ニ滞在不ル由
 前項梁啓超出京セシ其翌日即チ
 十八日東京麹町区元園町志丁目拾
 番地猶原陳政ナル者梁啓超ヲ
 大同學校ニ訪問セシモ既ニ出京ノ
 後ナリ以テ面會ヲ得ガレヨリ百六十一番
 林北泉方ニ赴キ同人ニ面會セリ

一

猶原陳政カ梁啓超ニ面會ヲ求メタル
 用向ハ前項林北泉ニ於テ聴取リ
 同人ハ之ヲ梁啓超ニ告ケシカ為ノ即
 日東京ナル梁啓超ノ寓所ニ至リタルニ
 猶原陳政ハ又東京ノ梁啓超ノ寓所
 ニ来リテ爰ニ於テ猶原陳政ノ三名
 鼎坐ノ上猶原陳政ノ言ヲ知テ聴キタルニ今ヤ
 日本帝國各大臣モ變更シ居ルヲ以テ清国
 亡命者ノ保護モ充分ナラザレバ日本帝
 国ノ版圖内ニ居ル者ハ甚ク危険ナルニ
 依リ一日モ早く米國ニ向テ出費スルニ力
 得策ナシヨシ若シ旅費等不足ナラハ
 三千円ヲ給与セシ高亦不足ナラハ幾何ニテモ

880018

440034

補足スワレト速ニ日本ヲ去ラレコトヲ勸告
 シタリト云フ然レモ梁啓超ハ断然其
 意ニ從フ能ハザル上自ラ述フ其後再三
 訪問スレモ面會ヲ謝絶シ居ル由
 一 猶原陳政ハ曾テ梁啓超ガ北京ニ
 アリシトキ交際シタリトアリト云フ
 且猶原ハ十八年同文邦ニ在居シ清國
 十三者ノ諒ニ熟達シ居ル由
 一 猶原陳政ハ清國公使ノ密旨ヲ受テ来
 リタリモノナル事ハ口外セザルモ語中自然
 其旨意味ヲ會シ居リタリ
 右及報告口復也

明治三十一年十二月二十二日

神奈川県知事 浅田 徳則

外務大臣ニ 齋藤 青子 閣下 殿

440035

18000

新六〇二第文

次信札

秘 甲 第 八 六 七 号

亡命清国人ニ関スル報告

昨 廿六日 当横濱居留地百二十一番
居住亡命清国人孫逸仙及陳
璧ハ在清国廣東ノ友人ヨリ左ノ
意味ヲ含メル書状ニ接シタリト云

書状ノ文意

今回廣東省總督ハ康有為以
下孫逸仙ノ仲間ヲモ日本政府
ニ請ヒ之ヲ清国へ連レ戻ルカ然
ラサレバ毒害ヲ為サシムルノ目
的ヲ以テ既ニハ人ノ使者ヲ日

本ニ向ケ出装セシメト云フ是ハ外
國宣教師ヨリ聞キ得タル事ニ有
之傳得公充分注意ヲ要ス云々
方ニ注意警言戒ヲ要スルモノト認
外 既及報告候也

三十一年十二月廿七日

神奈川縣知事 浅田徳則

外務大臣子爵青木周藏殿

警政事務局 納印

秘 甲 第 八 六 七 号

十一月廿八日受

清外務大臣

大臣 次官

政務局

秘書官

秘書官

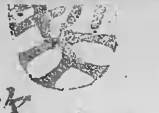
十一月二十日午後七時三十分 榎原陳政の梁啓超ヲ訪ハタル對

話ナリト言フヲ聞クニ 伊藤侯爵が支那ニ在留中李鴻章ヨ
リ清國亡命者ヲ日本ニテ保護シ置クハ外交上面白カラザル結
果ヲ生スヤントノ注意アリタル故 日本政府ハ近日亡命者ヲ退
去シ命スベキ旨ナルヲ以テ 本月二十八日便船アレバ其ノ命令ナ
キ中ニ米國カ又ハ支國ニ渡航セラルバ其ノ旅費ハ榎原ヨリ出
人五ス云々尚ホ 朴泳孝等ノ一行モ退去ヲ命スバントノト梁啓
超ハ打語ラレシヤニ聞ケリ

秘書官

政務局

秘書官



十一月七日受

中秘第一號

政務局

秘書官

榎原陳政の一行ニ早稲田南所四十二番地ニ
轉シテ居ルヲ合伴シテ時時記者村作太郎
啓超ヲ訪フシニ 面會ニ及リ村作太郎
キ清國改定始末後編 雜誌ニ掲載ス
為シ清國上海探報社 編輯 村作太郎
日新報社 編輯 村作太郎
知事 村作太郎

110011
100044
=ミ

青木外務大臣殿

440038

440038

第八號

次官

抄字第一八号

別紙津文之通 五等港より 投書者之姓名
唐者あり 同下東京市之 評あり 日蓮親
磨、協摩 評あり

明治三十三年一月十四日

神奈川縣知事 田代



外務大臣子爵青木周藏殿

神奈川縣廳

明治三十三年一月十六日

主官 政務司

440039

洋文

拝啓

目下貴地、清在之に清國ノ改革家康
有为、同人等當其清若クハ其米田、派
来云了ア、其ノ教宣セラル、オラント何年
其傳、アレ

彼等ノ關係者ハ無頼ナル其邦人及外國人
ヲ雇ヒ多額ノ費用ヲ懸ケテ曰ク刺シ
又ハ爆撃セシト致居ル

彼等ノ關係者ハ曰ク其國ハ、連次其
境又ハ其國ハ、其意を以テ知セリ
視切ト同情ト、由リ其記ノ次第曰ク、
其傳、アレ

神奈川縣廳

此米カリホルニヤ列

ニ其境ニ於テ

同情者

日本役人

御中

警第廿一号

契

明治二十二年一月十六日

警務部

甲種第一種

次官
東國桑港ヨリ「センパイザ」ナル匿名ラビテ別紙
歐文之通申来候条ニ考正取段内申候
也

明治二十二年一月十六日

警視總監大浦兼武

青木外務大臣殿

440044

第九九第

110041

Copy

San Francisco,
Cal: U. S. A.

To officials,
Japan.

Dear sir—

Please tell Kang Yuen Wei 康有為
the Chinese reformer now in your
Country, that if he comes here or
to this Country, he will be killed.

They have employed roughts, both
Chinese and foreigners to kill him or
blow him up at a large sum of
money.

If they heard he was going to England
by way of San Francisco or America.
Out of kindness and sympathy you
ought to inform him.

Sympathizer.

明治三十一年八月廿八日 主務政務局

秘甲才二五号

清国廣東惠州府の善縣

次官 鄭弼臣

三十二年



右者一昨五日英國汽船カブツク号ニテ香港ヨリ当横濱ニ来
着ニ居苗地百廿一番亡年清国人孫逸仙方、此船セリ聞ク知レ依
ハ全人、孫逸仙ト左派ノ者ニテ是迄香港ニ居住シ今回事
務打合ノ為メ奉朝シタル由ニ為日、後再ニ香港ニ立歸ル者
ナリト云フ

左及報告候也

明治三十一年一月十七日

神奈川縣知事浅田徳則

440042

外務大臣子爵青木周藏殿

通報廳 内務兩和 整頓部

第一六六号 平 氏全才 八年 全

廿二年一月二十日 受

王管政務局

秘書官

秘 甲 才 三 二 号

改官 大 肉 弁

440043

第三一第

当横濱居留地在番清國人ノ設立ニ係
ル大同学校總理及其他ノ役負ハ任期
満テ改選ノ苦ニ有之候趣然ルニ其役
負改選ニ付ニ派ヲ生セリ即チ一派ハ
康有為派ノ者ニテ同派ノ者ハ今日ノ
役負ヲ再選シ是迄ノ通同校ヲ維持セ
ントスル所謂維持派ニ有之他ノ一派
ハ康有為ヨリ一層急激ノ意見ヲ抱持
スル孫逸仙派ノ者ニテ好派ハ其役負
改選ヲ機トシテ同志ノ者ヲ役負ニ奉
ト同校ヲ改革セントスル所謂改革派

ニ有之候而シテ去ル十五日維持派ノ
有志者ハ中華會館ニ會合シ右役負選
挙資格者ヲ定ムルニ外國館ニ於テ商
業ヲ営ムモノ其他盛大ニ營業ヲ為ス
清國人ノ内二百余名ヲ以テ選挙権ア
ルモノト決定シ夕リ然ルニ之ニ反
對シテ改選權アル者ハ廣ク多衆ノ者ヲ
シテ選挙権アルモノト定メ同派ノ者
ヲ役負ニ選挙セシムト欲シ密ニ計畫
ル所アリ而シテ昨十七日百五十一番
忠和堂ノ名義ヲ以テ一昨日維持派
ノ者中華會館ニ於テ決定シタル選挙
方法ニ對シテハ投票ヲ為スベカラズ

REEL No. 1-0562

0050

440044

PA001A

出 録 第 百 五 十 五 号 第 一 卷 第 一 号

之々ノ旨趣ヲ赤紙ニ認メ之ヲ居留地
 内ニテ所ニ揭示セリ如斯状況ニシテ
 維持派ニ於テハ尚昨十七日夕七時三
 十分ヨリ更ニ集會ヲ催フシ去ル十五
 日決定シタル各項ヲ飽迄遂行スル趣
 相聞候ニ付或ハ兩派衝突ヲ醸成スル
 ヤモ難計ニ付特ニ警察官吏ヲ配置シ
 警戒相加候而シテ豫期ノ如ク昨十七
 日夜中華會館ニ集會ヲ催フシ來會者
 凡ソ二百餘名ニテ先ソ改革派ニ屬ス
 ル五十番雜業温芬ナル者ハ大同学校
 ヲ現在ノ傍ニ設置シコトヲ贊成スル
 者ハ誰ナルヤトノ同ヲ發シタルニ五

十六番温芬(憑鏡)如ノ実弟ナリハ起
 主シテ余ハ才一ニ其贊成者ナリト答
 ハリリ温芬ハ再ビ今夕ノ會合ハ清玉
 人ノ集會ナルニ此内ニ英國人ノ出席
 シ居ルハ不都合ナリ速ニ退場セシム
 べシ憑鏡如ハ英國ニ歸化シケンガセ
 一トト移レ居ルヲ以テ之ヲ指シタル
 モノナラシム云々ト述ベ憑鏡如ハ之レ
 ニ答フル所アリ夫ヨリ互ニ罵詈暴言
 ヲ吐キ其内ニ温芬等ノ一味ナル百三
 十四番無職鄭照百五十一番西洋料理
 屋陳長和同鮑棠等ノ壯士的人物ハ争
 闘ヲ始メ夕リ而シテ漸ク之ヲ取鎮メ

440045

440045

夕ルモ遂ニ好ノ集會ハ何等決定スル
 所ナク散會セリ尤モ多衆散會ノ後重
 ナル者相會シ去ル十五日決定シ夕ル
 選考資格者ノ決定ヲ取消シ更ニ今回
 ノ役員選考其他ノ関スル一切ノ事柄
 ハ奉ケテ中華會館ノ幹事四十五名ニ
 全權ヲ委ヌルコトヲ一決セシ由高岡
 ノ所ニ依レハ維持派ハ大同學校ヲ以
 テ康有為派ノ機關トシテ是迄ノ如ク
 清國人ノ智識者達ヲ因ル目的ヲ有シ
 又改革派ハ同校ノ名結復及教員等
 ヲ變更シ其組織ヲ改メ清玉革命派ノ
 機關ニ供セシトスルモノニシテ孫逸

仙ヲシテ之シカ主宰又シテトス
 ンモノナリト云フ且此改革派ノ重テ
 ン者ハ九番黎炳項五番温遇貴八十
 番譚奮初等ニシテ前書温芳等ハ之シ
 二使役セラニト壯士的人物ナリト云

右及報告候也

明治三十一年一月十八日

神奈川県知事浅田徳則

外務大臣子爵青木周藏殿

以女以爲之

乙秘第一〇九號 一月廿一日

清國刺客渡来ノ見説

在清康有為ノ友人ヨリ康有為ニ寄ル書中

清國人沈某陳某ノ政府ノ命ヲ受テ康有為及ヒ梁啓超ヲ暗殺セ

ニト目下上海ニアリテ日本人間ヲ復シ交際ヲ求メツアリ

云々

最モ沈陳ノ渡来ノ途ニ上リタル時ニ友人ヨリ康ニ報スハシトノ

コトナリ

7100001A

明治二十一年一月二十六日

主官 政務局



秘書官



至

乙秘第一五三號 一月廿四日

康有為梁啓超等ベレスフオードニ會見ノ為メ横濱へ出向
康有為梁啓超ハ在横濱香港上海銀行ベレスフオードニ會見
ノ為メ本日本日午後四時新橋發汽車ニテ出向スル等ナリ又康同照
ハ本日康有為ト共ニ在横濱ニ三日間位滞留シテ帰国スルト
コトナリ

次官 紀

大臣 A

受第一四六號

明治二十一年一月二十六日

主官 政務局



秘書官



警視廳

紀

乙秘第一六八號 一月廿五日

ベレスフオードト康有為

一月廿四日午後三時半新橋發汽車ニテ康有為梁啓超ハ相原
文太郎ト共ニ英國人ベンスフオードニ會見ノ為メ横濱市香
港上海銀行ニ振キタルベレスフオードハ横濱へ至リ會見
スルヲ得ス本日横濱へ歸ルヲ待テ會見スル等ニテ横
濱市大同学校林北泉ノ許ニ泊セリ

受第一五三號